

課題を解決するために必要な資質・能力を育成する社会科指導

～主体的・対話的で深い学びの実現を通して～

天城町立西阿木名中学校 教諭 阪本 晃年

目次

はじめに	2
I 研究主題について	2
1 研究主題	
2 研究主題設定の理由	
II 研究内容	3
III 研究の取組	3
1 社会科において育む資質・能力の整理	
2 課題を解決するために必要な資質・能力を育む授業設計	
(1) 「見通し」・「振り返り」の手立ての工夫	
(2) 積極的に交流・探究させる手立ての工夫	
IV 研究のまとめ	8
1 研究の考察	
2 成果	
3 課題	
おわりに	9

【参考文献】

- 中学校学習指導要領解説 社会編 文部科学省（平成 29 年）
- 社会指導資料 112 号 鹿児島県総合教育センター（平成 27 年）
- 未来の創り手に求められる資質・能力を育成する授業に関する研究～主体的・対話的で深い学びの実現を通して～ 鹿児島県総合教育センター（平成 30 年）
- 研究紀要第 51 号 思考力・判断力・表現力を育成する学習指導 鹿児島市立吉田南中学校（令和元年）
- 社会科における「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善 福島県教育センター（令和 4 年）

はじめに

教職に憧れを抱き、教職に就いて 19 年が経過した。学習指導や生徒指導等、周りの先輩方に支えていただきながら、これまで教育活動に取り組んできた。その中で、教科指導にあたり、これまでずっと私自身が大切にしてきたことがある。それは、生徒が「学ぶ楽しさや喜びを感じる授業設計をする」ことである。

変化の激しいこれからの時代を生き抜く子供たちにとって大切なことは、知識や技能の習得だけでなく、課題を解決するために必要な資質や能力の育成である。教職の年数を重ねるにつれ、これらの資質・能力を身に付けさせた上で、生徒に学ぶことの楽しさや成就感を味わわせる授業設計の大切さをより感じるようになり、今年度は「課題を解決するために必要な資質・能力を育成する社会科指導」という研究テーマを設定した。

これまでに実践してきた研究を振り返り、本研究における反省点や課題点を少しでも明確にすることで、更なる指導力の向上につなげたいと考える。

I 研究主題について

1 研究主題

課題を解決するために必要な資質・能力を育成する社会科指導
～主体的・対話的で深い学びの実現を通して～

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

学習指導要領（平成 29 年）の第 1 章「総則」においては、社会の変化に対応するために育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理している（資料 1）。

(2) 社会の要請から

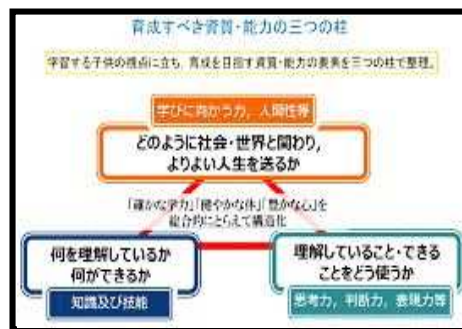
21 世紀に入り、グローバル化や情報化が一層進展し、将来の予測が極めて困難な時代を迎えている。ICT の更なる進化により、現在存在する職業の半数は AI によって代替の子供たちのキャリアや生き方に影響を与えると指摘されている。

複雑で変化の激しい社会の中では、固有の組織のこれまでの在り方を前提としてどのように生きるかだけでなく、様々な情報や出来事を受け止め、主体的に判断しながら、自分社会の中でどのように位置付け、他者と一緒に生き、課題を解決していくための力が必要となる。その達成のためには、未来を生きる子供たちに「何を学ぶか」だけでなく、「何ができるようになるか」（どのような資質・能力の育成を目指すのか）を実現する教育が求められている。つまり、知識や技能を活用しながら「自分で考え、表現し、実際の社会で生かす」ことが求められる。

これらのことから、社会科における学習においても、生徒が新しい知識や技能を得て、それらの知識や技能を活用して思考することを通して、知識や技能をより確かなものとして習得するとともに、思考力、判断力、表現力等を養い、新たな学びに向かったり、学びを人生や社会に生かそうとしたりする力を身に付けさせるような授業の展開が必要である。

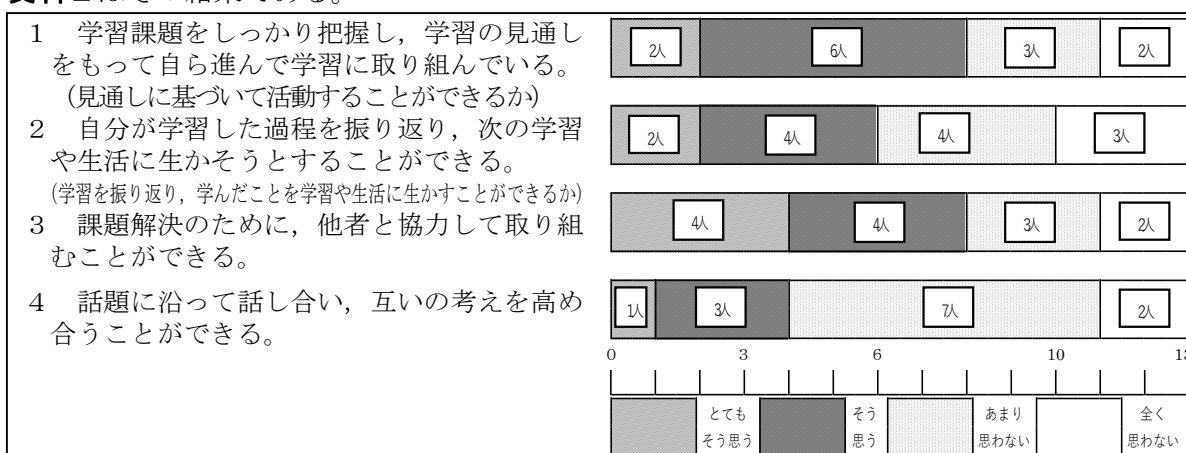
(3) 生徒の実態から

本校は全校生徒 15 人という小規模校である。どの学年の生徒も社会科に対する関心・意欲は高く、授業態度も真面目である。一方で、資料を基に根拠をもって自分の考えを表現したり、周りと協働して思考を高めたりすることに対しては苦手意識をもつ生徒が多い。深い学びの実現のためには、社会的事象の特色や意味などを多面的・多角的に考えたり、異なる立場に分かれて議論したりして、自らの考えを広げ深めることが大切である。本校生徒に身に付けてほしい資質・能力の状況や、日頃の授業で取り組んでいる学習活動について、生徒の意識を把握するため、アンケート調査を実施した（令和 4 年 5 月実施 対象：生徒 13 人）。



資料 1 育成を目指す資質・能力の三つの柱
可能とされ、それらが全て

資料2はその結果である。



資料2 アンケート結果

1, 2の結果から、学習に対する見通しや振り返りを意識させて課題解決を図らせることが大切であると考えた。4の結果は、少人数のため、多様な意見や考えにふれる機会がこれまで少なかったことが原因であると考えられる。そこで、対話を通して自分の考えを深める授業展開の必要性を強く感じた。

II 研究内容

- 1 社会科において育む資質・能力の整理
- 2 課題を解決するために必要な資質・能力を育む授業設計
 - (1) 「見通し」・「振り返り」の手立ての工夫
 - (2) 積極的に交流・探究させる手立ての工夫

III 研究の取組

1 社会科において育む資質・能力の整理

中学校学習指導要領（平成29年告示）では、社会科の目標を、次のように設定している。

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。

「公民としての資質・能力の基礎」は、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの資質・能力の全てが結び付いて育まれることを通して養われる。そのことは、社会的な見方や考え方を培いながら積み重ねる「社会との関わりを意識した課題解決的な学習」を通して実現されると考えられる。

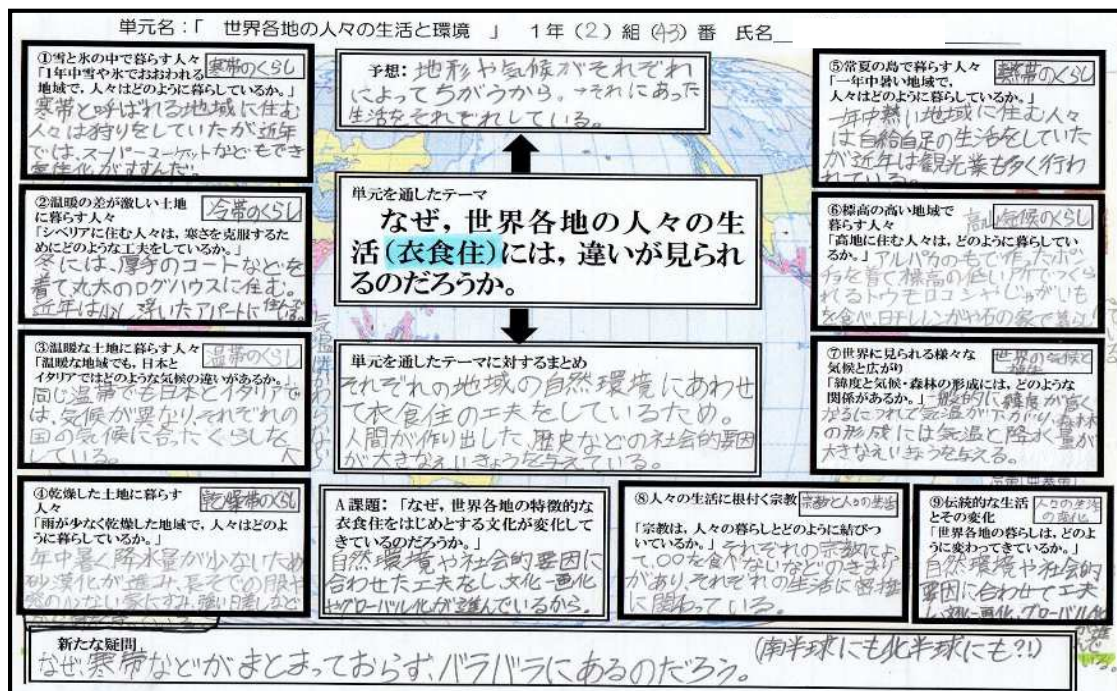
これらを踏まえて、本校社会科において育む資質・能力を、本校の生徒の実態と照らし合わせ、次のように設定した。

知識及び技能 「何を知っているか・何ができるか」	<input type="radio"/> 我が国の国土と歴史や現代社会の政治、経済、国際関係に関する理解 <input type="radio"/> 調査や諸資料から、社会的事象について調べ、まとめる技能
思考力、判断力、表現力等 「知っていること・できることをどう使うか」	<input type="radio"/> 社会的な見方・考え方を働かせながら、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力 <input type="radio"/> 社会的な見方・考え方を働かせながら、社会に見られる課題を把握し、その解決に向けて多面的・多角的に考察したり、構想したりする力 <input type="radio"/> 考察したこと、構想したことを説明し、議論する力
学びに向かう力、人間性等 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」	<input type="radio"/> 社会的事象について主体的に調べ、課題を意欲的に追究しようとする態度 <input type="radio"/> よりよい社会の実現を視野に考察、構想したことを社会生活に生かそうとする態度 <input type="radio"/> 他者との対話を通して課題を解決しようとする態度

2 課題を解決するために必要な資質・能力を育む授業設計

(1) 「見通し」・「振り返り」の手立ての工夫

ア 学習課題の解決に向けたリフレクションシートの活用



資料3 令和元年度のリフレクションシート

「見通し」とは、「社会的な見方・考え方」を働かせ、社会に見られる課題を把握して、課題解決の予想をしたり、解決への視点や方法を明らかにしたりすることである。

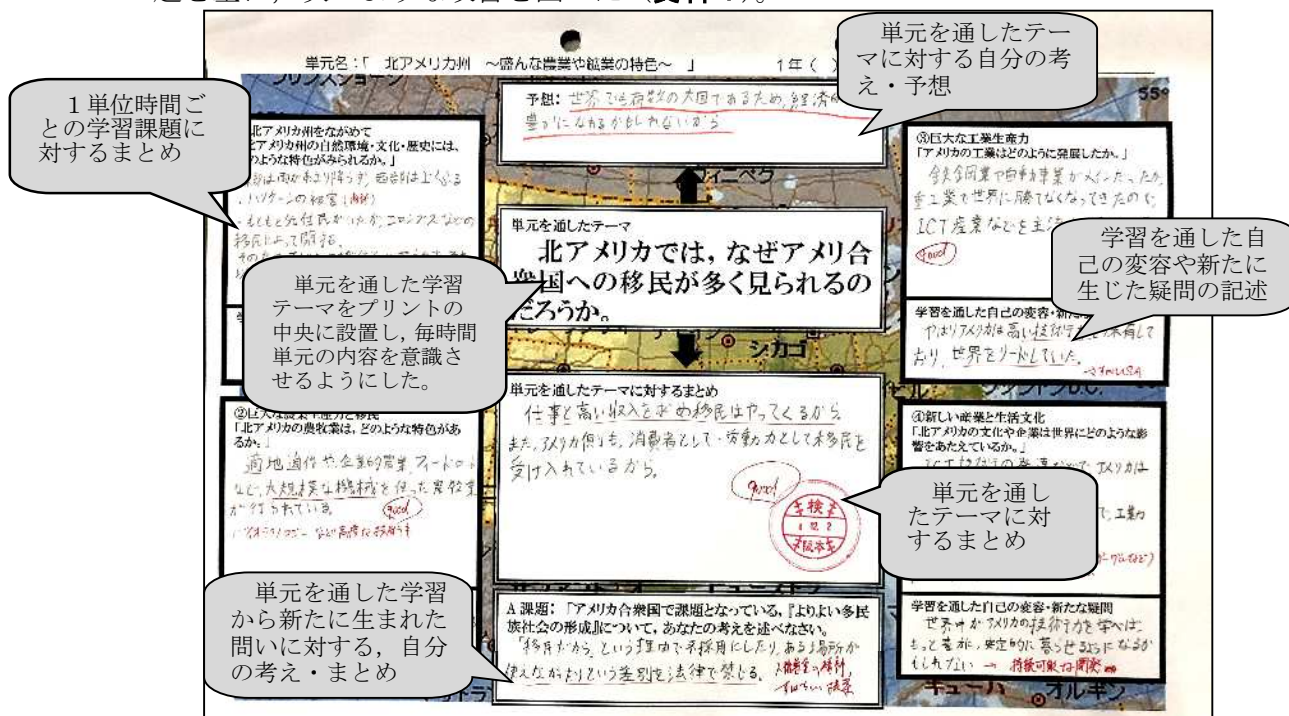
「見通し」をもつことにより、課題解決に向けてどこに着目し、どのように考えていくのかを把握することができ、学習の方向付けが明確となって、主体的に課題を解決することにつながる。また、課題解決の際に対話的な学習を繰り返し行うことを通して、自己の変容に気付いたり、他者の考えのよさを実感したりして、「社会的な見方・考え方」が育まれていくと考える。

「振り返り」とは、1単位時間や1単元の中で、学習内容などを想起し、既習事項と関連付けたり、新たな問いを見いだしたりする活動である。振り返りを重視することで、学んだことや課題解決のための方法等を整理し、自己の変容に気付いたり、社会生活への活用・意味付けや概念を形成したり、体系化したりすることができる。

そこで、令和元年度から生徒の「見通し」や「振り返り」を支援するためのツールとして「リフレクションシート」を作成し、活用してきた(資料3)。1単位時間ごとの「見通し」や「振り返り」だけではなく、単元を通したテーマを設定し、単元全体で学ぶべき学習内容を把握するとともに、個別的な知識が概念的・構造的な知識として関連付けられ、知識の理解の質が高まるようなものになるよう作成してきた。しかし、これまでの研究において、次のような課題が明らかとなった。

- リフレクションシートに記入する内容が、学習課題に対するまとめのみで、1単位時間における課題を解決する中でどのようなことを新たに学んだか、疑問に感じたか、などの「自己の変容」が見取りにくい。
- 生徒がどのように「社会的な見方・考え方」を働かせて課題を解決すべきか、または解決したか、思考の流れがイメージしづらい。
- 学んだことを、これからの生活や社会でどのように生かすか、生徒の学びに向かう態度が見取りにくい。


中学校学習指導要領解説総則編（平成 29 年告示）には、「第 3 節 教育課程の実施と学習評価」の 1 の(4)に「生徒が学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること」とある。そこで、これまでの課題を基に、次のような改善を図った（資料 4）。



資料 4 今年度のリフレクションシート

イ 知識の理解の質を高める問いの設定

社会科の学習においては、既にもっている知識と、新たに学習した知識とが別の場面につながったり、関連し合ったりする場面がある。知識と知識が相互に関連して結びつく場面や、単元の学習テーマの中心となる深い思考を必要とする授業において、教師が意図的に生徒の深い思考を要する問いを設定し、対話的に課題解決を図らせることによって、生徒の深い学びの実現が図られると考える。その際、「社会的な見方・考え方」を働かせ、単元全体や 1 単位時間の授業を見通した「問い」の構成の工夫は極めて重要である（資料 5）。

学習課題の問い	社会認識形成の段階	社会認識の深まり
<ul style="list-style-type: none"> • どうすべきか <p>【主体認識】</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 学んだことを活用して社会的事象について判断できる。 	社会的事象について、より深く理解する（認識する）。
<ul style="list-style-type: none"> • なぜ <p>【関係認識】</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 社会的事象の因果関係等について考察できる。 	
<ul style="list-style-type: none"> • どのように <p>【関係認識】</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 社会的事象の一般的な傾向や法則性を考察できる。 	
<ul style="list-style-type: none"> • 誰が • 何を • いつ • どこで <p>【事実認識】</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 身近な社会的事象についての事実を知る。 	社会的事象について、事実を知る（認識する）。

資料 5 社会認識と学習課題の問いとの関連

資料 6 は、地理的分野「世界各地の人々の生活と環境—常夏の島で暮らす人々—」の授業実践の流れを示したものである。この単元では、学習指導要領において、「世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現すること」としている。

そこでこの単元では、世界の人々の生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などについて、「衣食住を中心とした人々の生活」に着目し、人々の生活が可変的なものであることに気付かせるようにした。そのため、学習活動としては、人々の衣食住の特色を通して、その場所における生活の特色をとらえ、自然及び社会的条件との関係について、考察を深めさせるようにした。

この授業では、熱帯地域に住む人々の生活の様子を資料から読み取り、以前との生活の変化について捉えることを通して、経済発展と持続可能な開発の在り方について多面的・多角的に考察する。導入においては、写真等の資料から既習事項である他地域（乾

燥帯)との比較をさせた上で、「一年中気温が高い地域で、人々はどのような生活をしているのだろうか。」という学習課題を設定した。これまでの学習から、人々の生活について考える時には、「衣食住」に着目することを想起させ、本時の解決の方法について、シンキングスキルを活用し、課題解決への「見通し」をもたせた。

課題解決に必要な知識や技能を習得させ、サモアの人々が抱える問題と将来の展望について考察した後、より深い思考を必要とする新たな問い「持続可能なサモアの開発はいかにあるべきか。」を設定した。サモアの安定した経済成長に必要な主要産業は、これまでの伝統的な農業を中心としたものにするべきか、観光業を中心としたものにするべきか、またそれ以外か「効率」と「公正」の視点を基に対話を通じた課題解決を図り、生徒のより深い思考を促すことができた。授業の終末に、学習課題に対するまとめを行い、学習内容の「振り返り」を行った上で、「私たちの徳之島の持続可能な開発は、いかにあるべきか。」という新たな疑問が生まれ、授業を終えた。このような授業の流れをつくる上で、「Think Globally, Act Locally (地球規模で考え、足下から行動せよ)」という視点を授業設計の柱にしていくことも重要である。

このように、「社会的な見方・考え方」を働かせ、これまで習得した知識と新たに習得した知識を関連させ、更に思考を深めるための「問い」を設定することで、事実に関わる知識が、概念に関わる知識へと質が高まり、「公民としての資質・能力」が育成されていくと考える。

(2) 積極的に交流・探究させる手立ての工夫

ア シンキングスキルの活用

「社会的な見方・考え方」とは、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向け構想したりする際の「視点や方法」とされている。

この「社会的な見方・考え方」を働かせ、課題解決的な授業を展開する中で、解決として導く答えが一つとは限らないものや、社会的事象における相互の関連の中で、最適解や納得解を導くための有効な手段の一つとして、本校社会科では令和2年度より、シンキングスキルを活用してきた。

資料7は、「社会的な見方・考え方」を働かせ、課題解決を図るために整理したシンキングスキルの一覧である。社会科では、シンキングスキルを8つの項目に絞り、授業において思考・判断を要する場面や終末時において、どのシンキングスキルを活用して課題解決を図ったかを生徒に振り返らせるようにした。

過程	時間	形態	学習活動	指導
導入	5分	一斉	1 既習事項や資料をもとに、本時の学習課題を設定する。	ICT地域(サモア)を提示し、たせる。
			一年中暑い地域で、人々はどのように暮らしているか。	社会的な見方・考え方(シンキングスキル)を踏まえて設定した学習課題 追及意欲を高めさせる。
展開	35分	一斉	2 資料を基に、サモアの人々の生活について調べ、熱帯の特色について理解する。	教科書等を利用して調査させ、熱帯の自然環境について理解させる。
		個人	3 資料を基に、フィジーの人々の生活の変化について考察する。	資料を生活の変容の原因について考察させる。その際、シンキングツールを活用し、思考の整理がスムーズになされるようにする。 個人で考えた意見をグループで交流し、フィジーのこれからの展望についても考えさせる。
終末	10分	個人	4 学習課題に対するまとめをする。	リフレクションシートにまとめを記入させる。
		個人	5 開発と自然破壊に関する資料を見て、あらたな疑問を掲げる。	リフレクションシートに学習のまとめを生徒自ら記入させ、学習を振り返らせる。 リフレクションシート個別に学習について、見通しを振り返らせる。

資料6 「常夏の島で暮らす人々」の授業実践

シンキングスキル	
① 順序付ける 1,2... ●○○の順に整理すると... ●○○の順に考えると...	② 比較する AとBの共通点は... AとBのちがいは...
③ 分類する ●○○の視点で分けると... ●○○のまとまりに整理すると...	④ 関連付ける AとBを関連付けると... AとBのつながりは...
⑤ 多面的に見る・多角的に見る 他の視点から考えると... 別の立場から考えると...	⑥ 理由付ける 考えた理由は... 考えた根拠は...
⑦ 見直す 結果を予想すると... これまでの考え方から...	⑧ 視覚化する ●○○の視点で分けると... ●○○のまとまりに整理すると...

資料7 社会科で活用するシンキングスキル
(リフレクションシートの裏面に掲載)

具体的には、資料を基に思考を整理したり、複数の立場や意見を踏まえて構想したりする活動において、シンキングスキルの一覧を確認させながら、自分の思考を可視化できるように工夫した（資料8）。

イ 対話的に課題解決を図る場の設定

「対話的な学び」とは、社会的事象の特色や意味などを多面的・多角的に考えたり、異なる立場に分かれて議論したりして、自らの考えを広げ深めることなどである。また、「深い学び」とは、「社会的な見方・考え方」を働かせた考察によって、知識を相互に関連付けてより深く理解することなどである。リフレクションシートを用いて1単位時間の授業や1単元全体の「見通し」をもたせ、単元の中核をなす思考・判断を要する授業において知識の質を高める問いを意図的に設定することで、生徒の知識の質を「事実に関わる知識」から、「概念に関わる知識」まで高めることが期待できる。さらに、「深い学び」の実現のためには、「生徒にとって身近な課題」、「自身の利害に関わる課題」等、課題解決の必要性を生徒が実感できる課題を設定し、対話的に解決することが望ましい。

日々の授業においても、単元の指導計画の中に、単元を通したテーマを解決する上で必要な思考・判断・表現を要する1単位時間の授業を位置付けて、授業改善を図ってきた。

資料9は、第1学年地理的分野「開発の進行と影響」の授業実践を示したものである。

常夏の島で暮らす人々

1 テレビに映し出された写真や教科書を参考にサモアの生活をノートにまとめなさい。また、南緯圏から、アジア（サモア）と東京（日本）の気候の違いについて、記入しなさい。

2 資料を読み取り、先生から示された疑問について考え、答えよう！

資料Iから読み取れること
資料IIから読み取れること

自然と人間の相互依存関係に関わることを記述（解釈に基づく関係認識）

3 2でわかったことをふまえて、フィジーの今後をまとめよう。また、自分の考えも記入しよう。

4 グループでまとめた考え

5 自分の考え

資料8 「常夏の島で暮らす人々」で用いたワークシート

資料8 「常夏の島で暮らす人々」で用いたワークシート

【学習課題1】南アメリカで行われている開発は、どのような影響をあたえているか。

このまま森林伐採が進んでしまうと、地球環境はどうなっていくのかな？

温暖化が進んで、大きな災害が起きやすくなってしまうのかな？大変だ！

複数の資料の読み取り・解釈

シンキングスキルの活用による思考の整理

学習課題1の解決

自身の利害に関わる資料提示

新たな疑問・新たな問い

【学習課題2】持続可能な徳之島の開発は、いかにあるべきか？

生態系に影響が出ない程度で作物の栽培をしたり、自然保護区域を明確に設定したりすればどうかな？

主体的・対話的で深い学びの実現

対話を通して、知識を相互に関連付けた深い学びへ

事実に関する知識から概念に関わる知識の習得

資料9 「開発の進行と影響」における対話的で深い学びの授業実践

資料や既習事項を基に、「社会的な見方・考え方」を働かせて学習課題を設定し、開発がもたらす地球環境への影響について考えさせる場面では、シンキングスキル（資料7）を活用させ、ペアによる解決を図らせた。さらに、課題解決をしていく中で、南アメリカにおける持続可能な開発について考える場面では、開発と環境保全の両立は、自分たちの住む徳之島においても重要な課題であるという「学びの必要性」を生徒に認識させた上で、より深い思考を必要とする、新たな問い「持続可能な徳之島の開発は、いかにあるべきか」を設定し、対話的な学びを通して考えさせた。思考を促すために既習事項である「常夏の

島で暮らす人々」の農業と観光業の両立に関する資料を提示し、その授業で学んだことを想起させながら、事実に関わる知識を概念に関わる知識へと高められるように工夫した。その際、「Think Globally, Act Locally (地球規模で考え、足下から行動せよ)」という視点を持ち、今後も課題解決を図るように促し、授業を終えた。

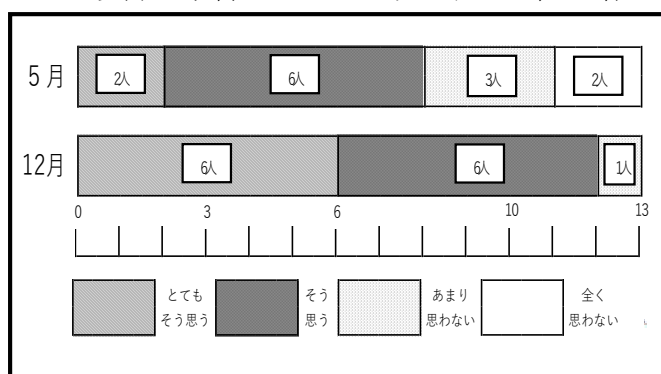
このように、単元を通したテーマを設定し、生徒のより深い思考を促す課題解決的な学習を充実させ、他者と共に思考と認識を深める場を設定することで、生徒が社会的な見方・考え方を働かせて、知識の質をより高めることができると考える。

IV 研究のまとめ

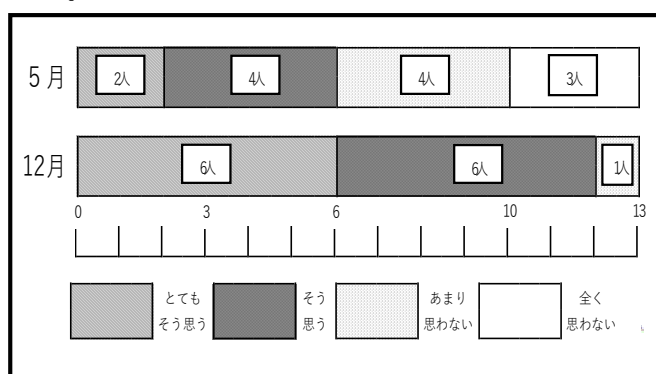
1 研究の考察

(1) 「見通し」・「振り返り」の手立ての工夫

リフレクションシートを活用して、単元全体の学習内容に対する「見通し」をもたせる指導の工夫をしたところ、**資料10**のような結果が得られた。また、1単位時間の学習内容や単元全体の「振り返り」ができるような指導の工夫をしたところ、**資料11**のような結果が得られた。学習を通じた自己の変容を自覚化することで、新たな疑問や課題意識をもち、以降の学習につなげようとする生徒が増えてきた。



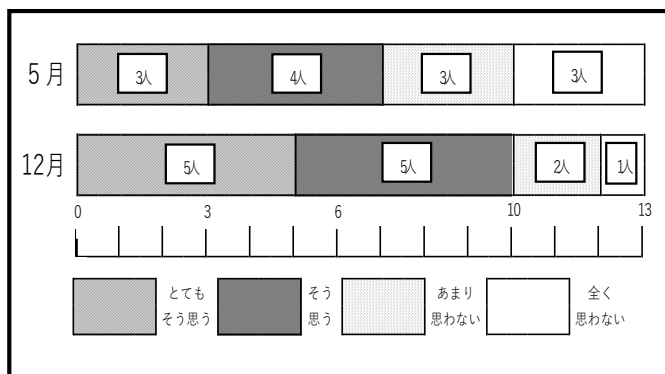
資料10 意識調査:「リフレクションシートを活用することで、単元全体や1単位時間の学習への見通しをもつことができたか。」



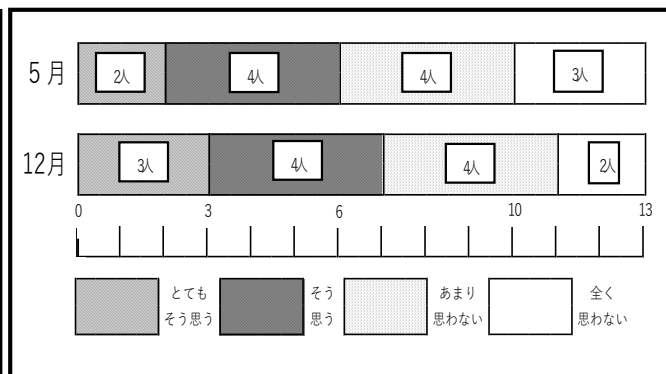
資料11 意識調査:「リフレクションシートを活用することで、単元全体や1単位時間の学習の振り返りができたか。」

(2) 積極的に交流・探究させる手立ての工夫

シンキングスキルを活用して、学習に対する「見通し」をもたせたり、対話的な学習を通して思考を深めたりする手立ての工夫を行ったところ、**資料12**のような結果が得られた。5月時点よりも12月の方が、課題解決に向けての「見通し」や、解決のための視点や方法を生徒自身が自ら考えられるようになってきた。一方で、学習課題の解決を図る上で新たに生まれた疑問や問いを基に、別の視点から考えを深めることができたかという問いに対しては、**資料13**のような結果が得られた。全体的には、シンキングスキルを活用して課題解決を図ることが定着しつつあるものの、生徒によっては、思考の深まりが不十分で、既習の知識と新たな知識を相互に関連させて、概念的な知識まで高めることができていない状況が見られる。今後も引き続き、シンキングスキルを活用して、学んだことから生まれた「新たな疑問」を追究することで、深い思考が促される授業を展開していく必要がある。



資料12 意識調査:「シンキングスキルを活用して、課題解決を図ることができたか。」



資料13 意識調査:「課題解決を図る上で生まれた新たな疑問を基に、別の視点から自分の考えを深めることができたか。」

2 成果

- (1) リフレクションシートに学習を通じた自己の変容を記述させることによって、学習に対する「振り返り」がより効果的となり、単元を通じた学習テーマと1単位時間の学習内容のつながりを生徒がより意識できるようになり、他の単元でも学んだことを生かせるようになった。
- (2) シンキングスキルを意識して思考・判断させることを通して、学習への「見通し」をもたせるとともに、課題解決のための視点や方法について、これまで学んだ学習内容と関連付けて、生徒自身が自ら考えられるようになってきた。
- (3) 単元の学習テーマの中心となる深い思考を必要とする授業において、生徒の知識の質を高めるための問いを意図的に設定し、対話的に解決させる指導の工夫をすることで、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、課題の解決を対話的に構想したりできるようになってきた。
- (4) 生徒にとって身近な課題や、自身の利害に関わる課題などを対話的に解決する場を設定することを通して、生徒が学びの必要性を実感するとともに、学んだことを実生活に生かそうとする姿勢の涵養につながった。

3 課題

- (1) 生徒の「学びに向かう力」を涵養するための手段として、単元を通じた学習テーマの解決のための視点や方法を生徒自身が記述し、学びの価値を見いだすリフレクションシートの作成が必要であると考ええる。
- (2) リフレクションシートに、1単位時間に生徒が習得すべき知識・技能をあらかじめ明確にするなどの工夫を行うことで、教師の指導すべきポイントが明確になるとともに、生徒の効率的な学びにつながるのではないかと考える。
- (3) 1単位時間における思考力・判断力・表現力等の育成及び、学習に対する「振り返り」を充実させるには、十分な時間の確保が必要である。そのための指導計画・授業設計の立案が大切であると考ええる。

おわりに

課題を解決するために必要な資質・能力を育む授業設計について研究に取り組むことを通して、教師としての資質向上を図ることができた。

これまでの実践を整理し、更に改善を重ねることを通して、一人でも多くの生徒が社会科を学ぶ楽しさを味わうとともに、学びの価値を見だし、自ら学びに向かう姿勢を身に付けることの手助けができればと考える。

授業中に、生徒が目を見輝かせながら課題に取り組んだり、発表したりする姿が、自分自身の学びに向かうエネルギーになっている。これからも、「学び続けること」を忘れることなく、これからの未来を担う子供たちの育成に努めていきたいと考える。